

研究名

済生会横浜市南部病院におけるオピオイド導入患者の末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬予防投与に関する使用実態調査

1. 研究の対象

2022年4月から2023年3月に、当院に入院しオピオイドが導入となった患者（食事摂取状況5割以下の患者は除く）100例

2. 研究目的・方法

オピオイドによる副作用の中でも便秘は耐性が生じにくく患者負担も大きいことから疼痛管理の妨げとなり得ることが知られています。オピオイドによる鎮痛作用は、主に中枢性 μ オピオイド受容体を介して発現することが知られています。 μ オピオイド受容体は末梢にも発現しており、消化管では腸筋層間神経、粘膜下神経、及び粘膜固有層に局在しています。便秘をはじめとする胃腸障害は、主に消化管に存在する末梢性 μ オピオイド受容体へのオピオイドの結合に起因し引き起こされます。そこで中枢性 μ オピオイド受容体に作用することなく、末梢性 μ オピオイド受容体に拮抗作用を示し、オピオイド誘発性便秘症（以下、OIC）の原因療法となることが期待され、2017年6月にナルデメジントシル酸塩（スインプロイク[®]錠）が発売された。当薬剤は米国消化器病学会、がん疼痛の薬物療法に関するガイドラインでは、複数の下剤を投与しても緩和されないOIC患者に投与することが推奨されています。当院ではオピオイド開始時に予防投与されている症例が多く適正使用に繋がることを目的として調査したいと思えます。調査内容は2022年4月1日～2023年3月31日の1年間に、当院入院中にオピオイドが導入となった患者を対象とし、使用薬剤、食事摂取状況、排便回数をレトロスペクティブに調査し、考察致します。

3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ情報（疾患名、身長、体重、検査結果、処方歴）その過程において氏名、住所など、患者さん個人の特定が可能な情報は排除いたします。

4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 南 朱音

6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問合せください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 南 朱音、生田 和之、高山 直也、山口 莉穂、小林 奈緒、佐々木 美理、
加藤 一郎